

元気一番！商店街

2014.10

第33号

1 はじめに

朝晩が少し肌寒く感じられる季節となりましたが、皆様いかがお過ごしでしょうか。

さて、「元気一番！商店街」では、様々な活動を通じて魅力ある商店街づくりに向けて「元気な取組み」を行う商店街の情報を、どんどんお伝えしていきたいと思っております。

2 新京橋商店街振興組合（都島区）

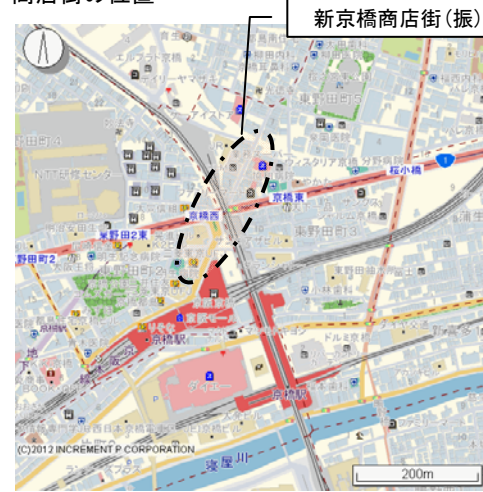
さて本号では、大阪環状線、京阪電車京阪本線、地下鉄長堀鶴見緑地線の3つの路線が乗り入れる「京橋」駅の北側に位置する「新京橋商店街振興組合（都島区）」に伺い、商店街の取組みに加え、理事長がお勧めするお店「銀シャリ館 なかもと」を取材してきました。

(1) 商店街活性化への取組み

新京橋商店街は「ビギン京橋」の愛称で親しまれており、南側の入口には、本物よりも大きな「真実の口」が設置されています。

当該商店街では、中ほどにある多目的ホール「ビギンホール」を活用して、20年以上も続く「ビギン寄席」や、カルチャースクール「ビギン教室」といった様々な集客イベントを行うとともに、商店街マップの

商店街の位置



新京橋商店街振興組合



「真実の口」モニュメント



「商売には誠実であれ」という考えと、真実の口のイメージが重なったとのこと。

配布やポイントカード「うきうき CARD」の発行など、販促事業も行っています。さらには、フリーマーケットを開催したり、使用済みの天ぷら油の回収を行うなどの社会貢献活動にも参加し、地域と商店街の活性化に向けて取り組んでいます。最近では、各店舗が100円やワンコイン価格で厳選商品を販売する「100円商店街」も名物イベントとなっており、次回は10月18日（土）に京橋中央商店街振興組合と合同で実施される予定です。

ガイドマップ



(2) 新京橋商店街振興組合理事長へのインタビュー

新京橋商店街振興組合の理事長の合志さんに、商店街の取組み等について伺いました。

理事長の合志(ごうし)さん



「新京橋商店街は、地元住民の方が訪れる近隣型の商店街であるものの、通勤や通学での通行量も多く、1日に約7,000人の来街者で賑わっています。近年は店主の高齢化やチェーン店の増加などで、組合活動での人手の確保が難しくなり、長年続いたイベントも打ち切らざるを得ない状況に陥ることもありましたが、商店街のキャラクター『ラブベリー』を活用したPR活動や、隣接する京橋中央商店街や地元住民の方々と一緒になって行う様々な事業に取り組むことで、活性化に向けて日々奮闘しています。」

私自身、昭和25年からこの地で生活・商売をしてきました。商店街が一番華やかでいた頃と比べると雰囲気は変わりましたが、今でも商店街が賑わっているのは、何より各店舗の会員さんたちの協力のおかげだと思います。これからも、会員一丸となって活性化に向けて取り組み、みなさんに愛される商店街でありたいですね。」

「ラブベリー」ちゃん



(3) お米と介護用品のお店「銀シャリ館 なかもと」

商店街の中ほどに「銀シャリ館 なかもと」があります。

4代目の店主の中本さんによれば、「創業時は配給制度下のお米の配給所しており、その後、パンや麺類も置くお米屋さんに業態を変え、現在ではお米と介護用品を扱うお店となりました。」

店長の中本さん(右)とお母様(左)



店舗の様子



「『お客様のご要望にしっかりとお応えする』ことを心掛けて商売をしていますが、15年程前の米不足の年には、お客様に十分にご満足いただける商品を揃えることが難しくなってしまう、とても苦労しました。そのような困難も経験しながら、誠実な姿勢を曲げずにお客様と向き合ってきた結果として、現在でも多くのお客様に支えられながら商売が出来ているのだと思います。」

他にも、お客様へのサービスも大切にしておられ、例えば、2kg程度の少量であってもご要望があれば、お客様の玄関先まで配達しているそうです。

店内の様子



また、介護用品については、お客様のニーズに応えるかたちで先代が取り扱いはじめ、「遠くに行かなくても買うことが出来る」と、近所のお客様にたいへん喜ばれているとのこと。

店内の様子

